

沖縄行ってきました

米田

沖縄にたくさんある米軍基地、その中でも最も危険な普天間基地がいずれ返還される予定です。実は、それでも米軍海兵隊の戦闘能力、日本の防衛能力は変わりません。それなのにキャンプシュワブにつながる辺野古にその替わりとして滑走路やそれに関連する施設を日本が全面的に費用を負担して作ろうとしています。「棚からぼたもち」な海兵隊と、利権が発生することにはじまりたくさんのメリットがある日本政府がそれを実現させようとしています。その事情をよく知り、基地の強化でしかないと考える沖縄のみなさんがそれに猛然と立ち向かっています。翁長知事を筆頭に県政治家が、そして市民がそれに立ち向かっています。現在その最前線が、辺野古の海を埋め立てるべく資材を運ぶための車両をキャンプシュワブから通すための搬入口での攻防です。そのゲート前に座り込むべく、3/30 から 4/2 にかけて沖縄に滞在しました。石川県平和運動センターに集まったカンパを使っての活動です。ここに報告いたします。

初日夕方に那覇入り。県教組の方と二人夕食を食べに訪れた場所は、沖縄を代表する女性ボーカルユニット『ネーネーズ』がステージで唄うライブハウス『島唄』。オリジナル曲の『黄金の花』の歌詞には「素朴で純情な人たちよー、きれいな目をした人たちよー、黄金(こがね)でその手を汚さないでー」
<https://youtu.be/zG5PLCoTzBQ>、彼女らのライブの幕間には米国による統治に対する抵抗運動をおこなった瀬長亀治郎を取り扱うドキュメンタリー『米軍が最も恐れた男ーあなたはカメジローを知っていますかー』を上映しています。お酒の席ですが、遠慮なくメッセージを伝えています。もちろん沖縄の地方二紙(琉球新報・沖縄タイムス)は毎日辺野古のようすを報道しています。販売が沖縄に限られているこの地方紙が民意から離れられるはずがありません。新基地(普天間の代替という規模をはるかに凌駕する辺野古計画をよく知る沖縄では代替基地ではなくこう呼ばれています)計画の実現を何としても阻止するという沖縄全体の決意を感じました。まさに、オール沖縄です。エネルギッシュな沖縄料理とオリオンビールと泡盛でこちらも元気注入。



翌 31 日、レンタカーで辺野古へ、まず最初のレクチャーは「正しいごぼう抜きのお返し方」、つまりいかに安全に、かつ多くの機動隊員の人手をかせかせて座り込みの強制排除をやり過ごすかです。

トラックが近づいてくると無線で連絡が入ります。ゲートを遮るように密集して座り込みます。50m ほど離れた正門から数十人の機動隊が出てきます。機動隊長が、(毎回同じなのでしょう)気持ちのこもっていない移動依頼を終わらせ隊員に指示を出します。『排除』。隊員が近づいてきます。両サイドの人からの腕組みに力が入ります。隊員は二人掛かりで引きほどこうとします。あまり意地を張るとケガします。かといってあっさり連れていかれてはダメです。引きほどかされ引っ立てられても立つことを拒否します。するともう一人



が足をかかえます。ここでうまく相手を怪我させないように足をジタバタすると足にも二人計四人の機動隊員に抱きかかえられることとなります。そして、10mほど担がれて機動隊員が作る2m四方の人垣の中に入れられます。ここでトラックの出入りが終わるまで閉じ込められるのです。その間もツワモノは腕を決して振り上げることなく機動隊員とおしくまんじゅうします、それがかなわない年配の方もその行為の不当性をまくしたてるのです。



そういう人に来てほしいんだ。」と無表情を命令されている彼らに語りかけていました。3回目も同様です。

いやはやなんとも消耗します。このゲート前でも、海の上でも、永田町でも同じことが起こっています。もう政府にとっては『問答無用』なのです。これだけの反対の声が上がっているのにも関わらず、、、マイクが回って来たときにこのように話しました。このイライラに共感した沖縄タイムスの記者さんに記事にしてもらいました。(4/1 朝刊・右写真) その晩は、テント泊。とても立派なのですが雨音がうるさいブルーシートと鉄筋で作られたテントで宿泊しました。その夜、自分の考えているじれったさとともに過ごす主催者側に伝えます。彼らもそれをももちろん分かった上で同じジレンマを抱えながらも、このような闘い方をつないで実はいろんな勝利をもぎ取ってきた先輩たちがいた、その事実を励まされて、勝つまで諦めずに継続していることを聞かされました。元気が出ました、本当に。

第3種郵便物認可

国強行高まる反発

市民に危機感も

全ブロック投下

【名護】県の岩礁破碎許可の期限切れが迫った31日、沖縄防衛局は急ピッチで汚濁防止膜固定用のコンクリートブロックを大浦湾に沈め、2月7日の作業開始から53日目、計2万8千個全ての投下を終えた。座り込みを続ける市民の反発と危機感是一段と高まっている。

「ただただ悔しい。少しため息をついた。この日も作業を遅らせたかったが、ついに終わってしまった。午後になると作業ペースが早まり、午後3時38分、抗議船船長の西川正夫さん65は最後とみられるブロックが投下されると、抗議船は海上行動を見送った。」

一方、米軍キャンプ・シユワブゲート前の座り込みは999日目を迎えた。那覇市から夫婦で参加した下門恵子さん(71)はコンクリートブロックの投下作業が終了したことに、「県民の意向を無視した、国の強行なやり方に腹が立つ」と反発。県統一連事務局長の瀬長和男さん(53)は「何がなんでも期限内に終わらせよう」としている。国は焦っている。環境に配慮して設置すると言っていたが、負荷が大きい進め方だ」と批判した。

金沢市の教員、米田雅人さん(55)は抗議運動が長く続いていることに「早く何とかしなければ」と焦燥感を表した。

シユワブゲート内には午前9時から午後3時半の間に、石材や機材を積んだ工事関係車両計51台が入った。車両が到着するたび、市民は機動隊員に手足を抱えられ、ごぼう抜きにされた。

翌 4/1 は、前日とは全く異なっていました。人数は昨日の 20 人から大幅アップの 400 人。この規模になると機動隊も排除を諦めます。結果ゲートも開かず工事車両の出入りが阻止できません。そして全国的に報道もされましたが、当日がゲート前行動ちょうど 1,000 日、そのイベントがはじまります。その中で、皆さん語る、語る。152 日の拘留を終えて弁護



士同伴の条件付きでもありながら顔を見せた活動のリーダー沖縄平和運動センターの山城博治(通称ひでぢ)さん。久しぶりの演説で、想いは募ります。そしてその想いは唄になるのです。すごいです。感動しました。国歌は言うに及ばず、校歌も緑の山河も苦手な自分ですが、涙しながら一緒に歌いました。

「い・ま・こ・そ・た・ち・あ・が・ろう〜。い・ま・こ・そ・ふ・る・い・た・とう〜。」

本当のことはウタの中にある、いつもなら、照れ臭くて言えないことも、斉藤和義の『歌うたいのバラッド』の一節は、まさしく正しいのです。

そしてこの日は、憧れの闘う島袋おばあちゃんにも会えました。

<https://www.youtube.com/watch?v=JwQHpt3DYcY>

その後辺野古の海岸に 4,000 日以上前に海の監視のために立てられたテント、高江のヘリパット造成の監視のために立てられたテントを訪れました。この二つは、当初の役目は終わっているのですが、活動の拠点、情報センターとして維持運営されています。本当に嬉しい。しかし嬉しいのは残念ながら相手



も同じでこの日の 15:20、人数が前日並みに減ったところで座り込み排除とトラックの出入りがあったようです。しかし彼らの逞しさこそが給料をもらっているというところからしか生まれないものなのです！東京 MX ニュース女子さん（新基地反対派は何らかの組織に雇われて日当をもらっている可能性がある」と報じた）。本当に厳しい厳しい闘いが続いています。

みなさんお疲れの中、元気に見えたのか帽子が目立ったのか、今度は琉球新報 4/2 朝刊にも写真が。（この記事の横には、米兵の飲酒運転による人身事故や、窃盗事件の記事でした）



最終日は平和の礎、平和祈念博物館に行きたかったのですがバスの便が悪く、自家用車が必要な沖縄を痛感して戻ってきました。

みなさまも、機会があれば是非現地にお出ましく下さい。現地に行くと伝わるものが必ずあります。

今この瞬間は楽しむ、けれども苦しむ人がいるこの現状にはオブジェクションです。この姿勢を民主党政権時に忘れてしまった自分を忘れないためにも、宣言しました。現地に行くことでそのポリシーがそれでよいことを自分なりに再確認しています。(水俣、新潟、福島、熊本そして沖縄。ちょこちょこ出向いています。)

PS1. オスプレイの墜落現場(名護市安部の海岸)を見に行きました。集落がある砂浜からは500mほどしか離れていない海岸です。そこを見に行き行って砂浜に戻って来たとき、そのときの様子を教えてくれた『ウミンチュ』のオジサンが忘れられません。サッピサビの軽トラで打ち上げられた自分の船を復元に来ているのに私たちの問いかけに一生懸命答えてくれました。

「墜落の夜は、捜索ヘリが夜中じゅう低空飛行をして肝を冷やしたよ。」

浜で行なっている漁業や生活に話は広がります。

「苦菜(にがな、海辺に自生する青菜)には真っ白な血が流れている。だから体にいいのさ。空気に触れると色が変わるけどね。」

「ここら辺はジュゴンの餌になる海草が豊富、だからついつい網にかかるんだよ、ジュゴンが。そうになったらよ、、、食べるしかあるめえ?ジュゴンの味? 上等霜降り馬肉の味、でもこれは秘密。むかしの話だよ。」

あのいたずらっ子のような笑顔が忘れられません。ネーネーズの歌の一節が思い出されます。

素朴で純情な人たちよ〜♪



PS2. ベトナム戦のとき、若い海兵隊を訓練しベトナムに送り込む上官は、『お前達には地獄(ベトナム)の前に天国(沖縄)を見せてやる』と言ったそうです。明日は死ぬかもと思う兵士にとっての天国って何?背筋がゾッとします。

PS3. 同行の県教組の方が、山城さんに握手「石川から来ました。」とつげると間髪いれずに「そうですか、内灘闘争の地ですね。」と反応されたそうです。先輩たちの想いをしっかりと学ばれ、引き継いでいるのですね。